

思いやりの心について

・情報モラルを、仏教の教えから考えてみよう

文部科学省は、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から道徳の時間を「特別の教科道徳」（道徳科）に変更し、より力を入れていくとしています。道徳科の授業では、いじめの問題への対応や我が国の伝統と文化、情報モラルに関する内容などの充実を図るという特徴があります。

【「特別の教科 道徳」の内容構成】 道徳教育の内容として、以下の4つの視点から具体的な内容項目を提示した。

- A 主として自分自身に関する事
- B 主として人との関わりに関する事
- C 主として集団や社会との関わりに関する事
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事

今回のテーマは「B 主として人との関わりに関する事」の中に含まれる、思いやりの心についてです。

B 主として人との関わりに関する事

- 親切、思いやり（低、中、高）
- 感謝（低、中、高）

- ① 思いやりのある人は、いつも笑顔で優しく、正直で誠実で、一緒に居て安心感があり、感謝され、尊敬され、寛容な人。信用・信頼される人。
- ② 思いやりのない人は、自己中心で自分の目的・欲望が最優先、自分に直接関係ないことには無関心で、気分次第で態度がコロコロ変わる、イライラして人にあたる等、一緒に居ると気分が悪くなるような人。

- ③ ストレスから起こる怒りは、健康にも悪影響を及ぼす。
- ④ 思いやりの心は、脳の前頭前皮質の左側を活性化し、幸福を感じられることが実験の結果わかった
- ⑤ 人を思いやる時、相手の反応を期待しないこと。(期待通りの反応がないとき、ストレスを感じ、不満や怒りにつながる。)
- ⑥ 特定の人だけ思いやるのは、執着や欲望の心が強まり新たな苦しみを作るので、気を付けよう。
- ⑦ ひどいことをされても広い心で受け止めて許す、寛容な心を育てよう。
- ⑧ 思いやりの心は、自分の心に平安や幸福感をもたらす。